

# طوراجيرو يامادا

The 100th anniversary of the Republic of Turkey

## TORAJIRO YAMADA

Art Director of Sultan Abdülhamid II



トルコ共和国建国100周年記念

## 山田寅次郎展

茶人、トルコと日本をつなぐ

2023年8月11日(金・祝)～11月19日(日)

休館日：月曜日(9月18日、10月9日は開館) 開館時間：11時～19時

入場料：大人1,400円／大人ペア2,400円／学生(25歳以下)・高校生・70歳以上の方・身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳お持ちの方、および介助者(1名様まで)1,200円／小・中学生700円

※入館料のうち、お一人200円を義捐金としてトルコ地震の被害地へ寄付させていただきます。

主催：山田寅次郎展実行委員会(一般社団法人山田家・

駐日トルコ共和国大使館・ワタリウム美術館)

展示協力：三菱ケミカル株式会社／株式会社堀内カラー／

ニチエ株式会社

出品協力：一般社団法人日本建築学会／

東京ジャーミイ・ディヤナト トルコ文化センター／

ジャン コレクション(ジャン チェティンカヤル)

実行委員長：隈研吾(建築家)

会場デザイン：山田紗子建築設計事務所

グラフィックデザイン：山本和久(Donny Grafiks)

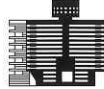
アニメーション映像：梶原洋平

テキスト：末澤寧史

会場：ワタリウム美術館

**WATARI-UM**

The Watari Museum of Contemporary Art



ワタリウム美術館

# 明治時代の青年たちは、更なる魅力ある日本を求めて、世界へ出て見聞を広めた。

1890年、日本に到着したオスマン帝国軍艦・エルトゥールル号が、帰路、台風で乗組員のほとんどが命を落とした事故に心を痛めた青年、

山田寅次郎は義捐金活動を開始、集めた義捐金を持参しオスマン帝国へと向かいました。

わずか24歳の目に映ったのはオスマン文化の荘厳さと人々の暖かさでした。本展は、山田寅次郎という明治の人物を介し、

日本とトルコという異なる歴史を持つ2つの国が交流する様子を伝えながら、相手の文化を深く尊敬することの大切さを感じる機会にしたいと思います。



## 第一章 情熱と愛を持って、オスマン帝国へ出航

多民族、多国籍、多宗教、多文化の混沌とした都市コンスタンチノブル（イスタンブル）で感じたこと、学んだことを著した『土耳古畫観（とるこがかん）』を映像とアニメーションを使用して展示、オスマン世界が会場に飛び出し、皆さんをオスマン世界に誘います。

山田寅次郎がイスタンブルの風景を描いた茶書 一般社団法人山田家蔵



山田寅次郎が著した『土耳古畫観』(1911年)より 大橋上の群衆



日本のミネラルウォーターのチラシ 一般社団法人山田家蔵

The 100th anniversary of the Republic of Turkey  
**TORAJIRO YAMADA**  
Art Director of Sultan Abdülhamid II

August 11th [Fri.] - November 19th [Sun.], 2023

Closed on Mondays (except September 18 and October 9)

Opening time: 11:00-19:00

Admission fee: Adults 1,400 yen / Pair discount 2,400 yen /

Student (high school to 25 years), Seniors (70 years and over),

Visitors with disabilities, their caregiver (up to 1) with ID 1,200 yen /

Children (elementary to junior high) 700 yen

\*¥200 per person out of the admission fee will be donated to the areas affected by the earthquake in Turkey.

Organization: Torajiro Yamada Exhibition Executive Committee

(Yamada Family Co., Embassy of the Republic of Turkey in Japan and WATARI-UM,

The Watari Museum of Contemporary Art)

Installation supporters: Mitsubishi Chemical Corporation / HORIUCHI COLOR LTD. / Nitie Corporation

Exhibition cooperators: Architectural Institute of Japan /

Tokyo Camii and Diyanet Turkish Culture Center / JAN COLLECTION (Can Çetinkayali)

Executive Committee Chairman: Kengo Kuma (architect)

Venue designer: suzuko yamada architects

Graphic designer: Kazuhisa Yamamoto (Donny Grafiks)

Animation creator: Yohei Kajiwara

Text: Yasufumi Suezawa

Venue: WATARI-UM, The Watari Museum of Contemporary Art



交通：東京メトロ銀座線「外苑前駅」より徒歩8分 青山通りを渋谷方面に向かい南青山3丁目交差点を右折、1つ目交差点左折

TRANSPORTATION: Take the Ginza-line subway to Gaenmae-station. It's an 8-minute walk from the station.

**ワタリウム美術館**

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前3-7-6 Tel:03-3402-3001 Fax:03-3405-7714  
Email:official@watarium.co.jp http://www.watarium.co.jp/



## 第二章 寅次郎の書齋へようこそ

山田寅次郎の人となり伝える展示と空間。そして大阪の自宅にあった寅次郎の書齋の再現をします。晩年、家元として活躍した茶道具、オスマン帝国、アジア、ヨーロッパから持ち帰った品々、寅次郎が読んでいた本、使用していたものを展示。キッチンで寅次郎のテイストをお楽しみください。

### トルコ・タイム 「お茶の時間です」

毎日15:00より、会場にて、チャイを飲みながら、山田寅次郎のお話しをします。

先着 6名。参加費 500 円 (チャイとトルコのお菓子「ロクム」付き)  
\*別途、当日有効な観覧券チケットが必要です。



天球棚 モスクをイメージして作った茶道で使う棚 一般社団法人山田家蔵



トルコ国旗茶碗 一般社団法人山田家蔵



八世希斎宗有好 トルコ帽型釜 一般社団法人山田家蔵



## 第三章 忠太と寅次郎の絵ハガキ図書館

建築家伊東忠太が、オスマン帝国に滞在していた時、寅次郎と不思議な友情が芽生えました。旅の途中、忠太から送られてきた絵葉書は、ユーモア一杯、エジプトで見た遺跡について熱く語り時には、可愛い絵が紙一面に書かれています。寅次郎が、大切に保存した忠太からの絵葉書100余点を今回初展示します。絵葉書を見ながら二人の様子を想像してみてください。



伊東忠太が山田寅次郎に送った葉書 1905年 一般社団法人山田家蔵

- 山田寅次郎(1866~1957)
- 1866年 中村家の次男として誕生。祖父は、上州沼田藩江戸家老だった。
  - 1881年 茶道宗偏流七世家元・山田宗寿の養子となる。同年東京薬学校(現・東京薬科大学)入学。
  - 1884年 東京薬学校卒業。
  - 1888年 幸田露伴のデビュー作『露伴』を出版社に売り込む。
  - 1890年 オスマン帝国軍艦エルトゥールル号海難事件の義捐金活動を行う。
  - 1892年 義捐金を持参しオスマン帝国へ。スルタン・アブデュルハミド2世に謁見。オスマン帝国滞在中、東洋美術の分類を監修する一方、中村商店を立ち上げ美術工芸品などの貿易を行う。日本から来た要人の仲介役を担い、「民間外交官」と称される。
  - 1905年 日本に帰国後、製紙会社を設立し、実業家として活躍。
  - 1911年 オスマン帝国滞任記『土耳古畫観』(博文館)を上梓。
  - 1923年 茶道宗偏流家元宗有を襲名。
  - 1924年 日土貿易協会を設立し、理事長として晩年で日土友好に尽くす。
  - 1957年 没。享年91歳。



**WATARI-UM**  
The Watari Museum of Contemporary Art

